

2013年度 政策提言ツアー 実施報告書

実施日：2014年2月12日

訪問先：財務省、観光庁、国土交通省（港湾局）、外務省

参加者：赤井ゼミ1学生8名、引率教員2名（赤井(大阪大学)、倉本(甲南大学)）

内容

1. 政策提言ツアー企画の経緯.....	1
2. スケジュール.....	3
3. 参加者コメント.....	3
財務省訪問.....	3
観光庁訪問.....	5
港湾局訪問.....	7
外務省訪問.....	9
政策提言ツアー全体.....	10
4. 政策提言ツアー実施の効果：引率教員のコメント.....	12

1. 政策提言ツアー企画の経緯

大阪大学法学部国際公共政策学科赤井ゼミ所属の学生が2013年度に執筆した論文(題目「安全で開かれた日本実現のために～ビザ緩和の効果について～」)が、ISFJ(日本政策学生会議)において、政策提言賞を受賞した。この賞を受賞したゼミは、論文において提言した政策に関して、実際に、その政策を所管する省庁に訪問し、提言を行う慣例にある。受賞した論文は、ビザの緩和に関わる論文であり、ビザ緩和の政策に関わる官庁として、外務省・観光庁を訪問することにした。また、その省庁の予算査定を行う財務省も訪問することにした。さらに、賞は受賞しなかったものの、ゼミで港湾に関する論文(題目「我が国の国際コンテナ戦略港湾の集荷力に関する一考―神戸港トランシップ貨物に着目して-」)を執筆したこともあり、国土交通省港湾局も訪問することにした。財務省では、港湾局予算を査定する部署の担当者の方にも、同席していただいた。本ツアーに御協力いただいた省庁の皆様には、学生に貴重な体験の機会を与えていただいたことに、深く感謝したい。

¹ 連絡先：赤井伸郎（大阪大学国際公共政策研究科教授）akai@osipp.osaka-u.ac.jp

2. スケジュール

10:15-11:15 財務省主計局訪問

(観光、港湾、外務担当主査)(港湾班、ビザ班論文説明)

12:05-13:20 観光庁政策提言セミナー(ランチセミナー)(ビザ班プレゼン)

13:30-14:30 国土交通省港湾局訪問(港湾班・ビザ班論文説明)

15:30-16:00 外務省外国人課訪問(ビザ班論文説明)

3. 参加者コメント

財務省訪問



- 財務省の建物がこれまで想像していた以上に古くてびっくりしました。特に、小学校のような廊下が印象的でした。発表者は少し緊張していましたが、対応くださった主査の方々が真剣に聞いて下さり、質問や助言もいただけたため、さぞやりがいがあったことだろうと思います。予算判断の現場でも定量分析が議論に上がってくれば、それをきちんと参考にしているという事をおっしゃっていたことが印象的でした。自分も今年、分析手法をきちんと学ばなければと思いました。また、統計データを収集するのにも費用がかかることも改めて認識しました。
- レトロな建物が印象的でした。論文においてどのような政策をすると一番効果があるかを分析・検証することは非常に重要だと仰っていました。また、財務省に上がってくる各省庁からの予算案などにおいても効果の分析・検証が同様に重要だからだという理由もうかがいました。例えば外国で日本の宣伝をして訪日外国人を増加させるような広告を出すための予算を出してくれという観光庁からの要求に対して、十分な効果検証はしているのか、そして分析をしていたとしても、正の変数があるからといってそれが本当に説明変数なのかわからない(内生性の問題)といったことを考えてお

られるとの説明も受けました。そして、もし日本に実際来てくれたとしても、どこに行って、何をするのかという旅行商品がないとダメなので、その整備も同時進行した方がいいのではないかと、などを双方向で考え予算を決定するそうです。政策提言を考える際に、地方などとの関係も考えることが大事だと仰っていたのも、論文大会審査における講評の中で指摘されたことがあったので印象的でした。

- 所管官庁とは違った立場から見た意見を聞くことができた。ビザに関して、メリット・デメリットを直に感じる、観光庁・法務省・外務省とは違った目線は興味深いものであった。
- コスト面から政策を練り上げていく過程を担当者からお聞きすることができた。論文の政策提言においては、こうした緻密な予算編成が実施されていることを意識しなければ実現性が乏しく、陳腐な提案に終わってしまう。今後も論文を執筆する我々にとって、担当者からの直接のお話は非常に有益であった。
- 直接お話を聞いていただき、多くの意見を頂いたことはとても貴重な経験になった。平成26年度の港湾局予算で提示されていた国際コンテナ戦略港湾競争力強化支援事業で港湾運営会社が行うインセンティブ付与等の事業に、私たちの政策提言をぜひ活かしてほしいと思った。
- 分析結果より効果があると判断される説明変数に関する政策が本当に効果的であるかはさらに慎重な判断が必要であるというコメントが印象的であった。実際に政策を行うには当然ながら費用がかかるのであって政策効果の測定は厳密に行われる必要があることは納得できたし、自分たちの論文ももっと説得力を持たせるように分析面でさらに深めることができればよいと感じた。また、財務省の立場から見て外務省が観光庁と法務省との板挟みになっているというコメントはとても分かりやすく面白くも感じた。

観光庁訪問



- ビザに関する論文を執筆した学生が具体的事業を質問しましたが、概ね行政事業レビューにて取り上げられている内容の回答が返ってきたので、事業概略を知るためには、レビューをこれからは最初に見ようと思いました。実際にビザ緩和の効果が上がっているということが観光庁の中で、認識されていることを知りました。しかしながら、世間一般にはあまり知られていないな、とも感じました。
- 観光庁ではランチセッションでの発表でした。建物が近代的で、参加して下さった方々も明るく全体的に解放的な雰囲気でした。特にビジットジャパンの担当の方のお

話が明確・端的で分かりやすかったです。説明変数に対する質問もありました。発表の際には、ほぼ全員の方が実際にビザ班の論文を開いて熱心に読んでくださっていました。

- まず会場の広さと人の多さに圧倒された。しかしその分、ビザ担当の方、V J担当の方からの幅広い意見を聞くことができた。私たちの発表に関して、厳しい意見もあったものの、良い政策提言だと認められたことはとてもうれしかった。
- 観光庁では訪日客誘致の担当部署ならではの現場の声を聴くことができた。ワーホリの在留資格で不法残留をする人は少ないという点や、近年の訪日外客増加の大きな要因として近隣諸国の高所得人口の増加もあげられるという点の指摘から、自分たちの論文に欠けていた視点に気づかされた。また、修学旅行ビザに関する提言は自分たちのメインの提言であったので、それを現場の方たちに実際に提言し、コメントをいただくことができてうれしかった。

港湾局訪問



- データを取る場所、内容（定義）に気をつけようと思いました。また、見つからない場合は統計データを収集している省庁に問い合わせるのが一番確実な手段だとわかりました。マクロでしか見てないところにミクロの視点を導入することも意義があるときもあるということも感触として得ました。
- 港湾局の方との意見交換で、実現性をもった明るい政策や視点の発見に期待して臨みましたが、やはり日本港湾の現状を改善するのがいかに難しいかを感じるばかりでした。また、港湾の現状についてよく調べられていると評価して下さっただけでなく、政策提言として、国と地方が同じ方向を向くために、政府委員会に地方港関係者が出席すべきだとする視点が良かったと言っていたことはとても嬉しかったです。また、この地方港関係者の出席といった提言の実現性の点に関してもっと意見を伺いたかったです。来年度は国際コンテナ戦略港湾に対する予算が増加する中で、国の行政は、予算をどう割り当てていくのか見ていきたいと思います。今回のように一日のうちに複数の省庁を訪問することができるのは人生において、最初で最後なのでは、と思いました。
- 局長室でのディスカッションでした。お話の中では、港湾に関してはデータ集めが難しいというご意見が多かったように思います。データがないからと言って、新たな統計調査を行えば良いかといえば、それ自体が事業者に対して新たな負担を強いることになることや、予算や採算性の問題も出てくるとのことでした。論点の視野の問題に関しても改善点をたくさんご指摘くださいました。特に、港湾での貨物はもちろん輸出だけではなく輸入との関係のバランスも大事ということです。品目に着目した点などの、学生ならではの視点での切り込みが注目されたように思いました。
- 港湾局では直接ビザとは関係なく、港湾班のプレゼンに対するコメントを聞くことが中心だったが、やりとりを見ていて感じたことは、データの重要性である。そのデー

タが意味するものをしっかり考えないと、政策提言が、現状とは違ったものになってしまう恐れを学んだ。

- 港湾局の方と直接我々の提言をもとに議論する機会を頂いた。知識も経験も乏しい、一介の学生に対して、真摯に対応してくださり、有難かった。論文執筆中には主に利用したデータに対する疑問点がいくつかあったが、そうした疑問への回答をいただき、納得した点多かった。データの取り方や輸出だけでなく輸入も考慮するというアプローチは勉強になった。
- 直接お話を聞いていただき、多くの意見をもらえたことはとても貴重な経験になった。平成26年度の港湾局予算で提示されていた国際コンテナ戦略港湾競争力強化支援事業で港湾運営会社が行うインセンティブ付与等の事業に、私たちの政策提言をぜひ活かしてほしいと思った。
- 完成自動車の港湾統計のデータに関しては、私たちの解釈の仕方が間違っていたことがわかり反省した。統計の単位がコンテナ数だったりトン数だったりと変わるので、その点については今後注意したい。ただ、自航の定義については資料に記述してほしかった。釜山へのデータはBPAにあるとのことだが、サイトが全てハングルで読めなかったのが残念だった。やはり、港湾に関してはデータの制約がまだまだ多く感じた。今年公表予定のコンテナ流動調査で分析を行ったらより良いデータが得られると思う。

外務省訪問



- 機密が漏れにくい隙の無さを感じました。
- 厳重なセキュリティで自分の居場所が分からなくなるような建物でした。ビザの問題と日本の安全の問題は密接で、同様に法務省と外務省との関係も非常に密接なものだというお話が印象的でした。
- 最後の外務省では、時間の少なさが悔やまれる。しかしその短い時間の中でも、観光庁と法務省の板挟みの外務省という立ち位置のあり方が勉強になった。その板挟みになっている組織が、ビザの発給を担っているというのは非常に合理的であると感じた。
- 特にセキュリティの厳しさに驚いた。省庁ごとに雰囲気も異なり、そうしたことを肌で実際に感じる事ができたことも、楽しかった。
- 外務省は建物のセキュリティなどからも感じられるが、安全面の観点から、情報を公開することには慎重な姿勢を取っていることが伺えた。ビザについての論文を書く中で、ビザについて情報の公開が不十分だと感じていたが、ビザ制度は日本の安全にかかわる硬い部分であって、簡単には情報公開が進められないということが分かった。しかしながら現状の情報公開のままではやはり、ビザ制度に関する研究には障壁が多いことも事実であり、そのあたりの兼ね合いが難しいと感じた。

政策提言ツアー全体

- 全体を通して貴重な体験をさせていただいたと思えました。各省庁のカラーの違いというのも、こんなに如実に出るのだとも思いました。実際に交流をもつと、いろいろわかることもあるなあと感じました。これからも機会があれば、色々な所でいろんな人に会ってみたいです。
- これまで論文を書く中では、各省庁に対して私は大きな漠然とした組織としてしか見ることができず、政策に関しても上から目線で個別の事象を細かく見ずに決めているのではないかという思いが拭えなかった。しかし今回の訪問を通して、VJの各国へのプロモーションにおいてどの国にはどのような売り出し方が効果的かを考えるという観光庁の方のお話や、各コンテナによって価格を重視したいとか港までの距離を重視したいとかいう思いがあるという港湾局の方のご意見を聞く中で、自分のそれまでのイメージが全く覆された。また、港湾局の方が国益の最適を考えないといけないとおっしゃっていたのも印象的だった。
- 論文のプレゼンを各省庁の方に聞いていただいたことに関しては、正直、想像以上に手応えがあつてびっくりした。学生が書いた論文なので、官僚の方からのコメントももっと一方通行的というか私たちが考えさせられるばかりなのかと思っていたが、新鮮な視点で刺激的だったとおっしゃっていただけてとてもうれしかった。来年も多角的な視点からさらに鋭い切り口で論文を書いていきたいと思うモチベーションになった。
- 日本の政策の現場で働く方々とお会いするだけでなく、論文発表や意見交換をすることができ、大変貴重な時間となりました。主に港湾局での会合について振り返ります。港湾に関する論文が大会で受けた評価の中でも、私が特に気になった点は「実現性」と「その政策が与える影響」でした。練りに練ったつもりであった提言も、大会を終えてから、改めて自分たちの論文を見直したとき、その実現性や、荷物の動きがどのように変わって現状がどう変わるのかという影響がはっきりと見えないと感じ、政策を考えるのは本当に難しいと再確認しました。
- 今回初めて霞が関に赴き、各省庁に訪問させて頂いて、しかもディスカッションの場があるという機会に恵まれて、とても良い経験をさせて頂きました。非常に良い刺激を受けることができ、本当に感謝しています。この刺激を忘れず、自分の将来への大きな糧にして頑張ろうと思います。
- 私はこの政策提言ツアーに参加して、政策提言、発表全般に対するコメントが、非常に納得しやすいもので、かつ重みがあるものだったと感じた。具体的には、単にデータだけを見るのではなく、そのデータが意味するものを考えることなど、もう一步踏み込んだ思考が必要だと感じた。これは来年の論文執筆の際にも役立つと思われる。

- 各官庁の立場など、調べているだけでは見られない部分を見ることができて、本当に有意義なツアーであったと思う。今回はビザに肯定的立場をとる省庁を訪問したが、否定的立場をとる省庁の意見も、今後調べていきたいと思う。
- 論文執筆過程で生じた疑問を直接お聞きしたり、我々の論文への評価を頂戴したりしたことは、政策提言型の論文を書いた我々には何よりも嬉しい経験だった。来年以降も同じような企画が可能であるかは分からないが、お一人でもお付き合い頂ける省庁の方がいらっしゃれば、ぜひ実施させて頂きたい。
- 個人的にこの政策提言ツアーを通して印象に残ったのが、「統計調査に使う予算」をめぐる議論だった。統計データを収集し、公表できるようにまとめるのに必要な予算は一般的にどれ程の金額になるのかわからない。だが十分な調査を行った上で施策を行い、最大限の効果を得ることができれば、それは最善の予算になるのではないかと私は思う（そんなに単純な話ではないだろうが）
- 今後の研究の仕方についてのアドバイスもいただけたので、引き続き調査を行っていただければもっと具体的で実用的な政策提言を行うことができそうだ。
- どの訪問先でもビザや不法残留者数についての定量的分析は今まであまり行われておらず、興味深いものであるとコメントをいただきうれしく感じた一方、そういった研究がもっとなされるべきではないかと感じた。
- 提言ツアーを通して現場の方のコメントから自分たちの論文に足りなかった視点に気づかされたり、論文を書く中で疑問に思っていたことを解決できたりと、本当に貴重な機会であったと思う。
- 今回の企画の趣旨からは外れるかもしれないが、行政評価レビューの時に来ていただいた官僚の方や、以前ゼミにきてくださった若い世代の方と、今回対応していただいた比較的上層部の方たちの印象が大きく違ったことも興味深かった。あくまで印象だが、今回会った方たちは落ち着いている、あるいは硬いといった印象で、僕の持っている“官僚”のイメージに近かった。今回は僕たちの論文にコメントをいただくことがメインであったこともあって淡々としたやり取りだったので、機会があれば現場で働いている方たちが、たとえば訪日客増加といったそれぞれの目標に向けてどんな思いを持って働いているのかなども聞いてみたいと思った。

4. 政策提言ツアー実施の効果：引率教員のコメント

1)

このたび、霞ヶ関の省庁を訪問する機会を得たことは、学生にとって、日ごろ味わえない実体験をする貴重な機会となった。ゼミでは、さまざまな社会問題を取り上げ、その問題を解決するための政策のあり方を議論している。経済学的手法を駆使して、説得力のある解決策を示す努力をし、論文大会では、審査委員に評価してもらう。ここでは、論文としての体裁や政策の妥当性を評価するものの、その評価者は必ずしもその分野の専門家ではない。専門家でない相手に対しても説得的な議論をする必要がある。そのためには、現実には生じている問題の把握に加え、現在、その問題にどのように対処し、どのような問題が残されているのかを正確に知ることが重要である。

実際に、その問題解決のために政策の制度設計を行っている担当者と、政策課題について議論することは、これまで勉強してきた課題を正確に把握できていたのか、どのような視点が抜けていたのかを知るきっかけとなる。これは、単に、論文を改良できるだけでなく、今後の政策提言において注意すべき点も学ぶことができる。その意味において、将来につながる経験となったであろう。

また、いろいろな省庁を訪問したことで予算査定を行う財務省と、事業を実施する省庁との違いなど、政府の統治の仕組みも学ぶ良い機会となったようである。このツアーは、学生たちにとって、さらに深く社会を考える機会となり、大学を出た後、より一層、社会に貢献していくきっかけとなったと思われる。

2)

政策提言を目的とする論文の学術的な貢献は分析スキルや分析対象、データ等の新規性だけでなく、「実際に政策として機能する提言をしているのか」という実現性にもある。今回の政策提言ツアーを通じ、学生たちに対して政策立案とその実行を担当されている方々から直接のご意見・ご助言を頂けたことは、学生にとって更なる学習の意欲につながったように思う。特に、現在の政策がどのようにどこまで進められており、今後どのように進めようとしているのかという、担当されている方ならではの話を伺えたこと、そしてそのお話の流れの中で学生たちの政策提言がどのように位置づけられ、実現性を持たせるためにどのような視点が必要になるのかを教えていただいたことが印象的であった。お忙しい中にもかかわらず学生のためにお時間を作ってくださいました全ての方々に感謝する。